スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県尾張旭市

自 治 体 名 ： 尾張旭市
担 当 課 名 ： 教育委員会事務局学校教育課
電 話 番 号 ： 0561-76-8176

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	21.03㎢
人口	83,653人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	2,250人
部活動数 （運動部活動のみ）	34部活
地域クラブ活動数	0クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	未設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

少子化と教職員の働き方改革を背景に、民間企業との実証実験の成果等を踏まえながら、令和8年8月で休日の学校部活動を原則廃止し、令和8年9月から、体制が整った種目から順次『地域クラブ活動』に切り替えることとしている。

【尾張旭市地域クラブ活動の概要】

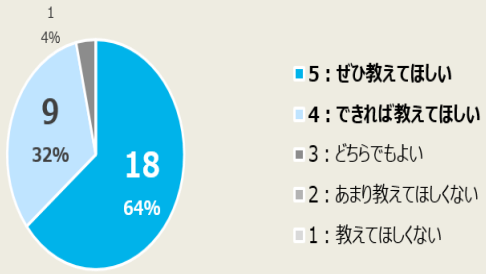
- 競技性や成果のみにこだわらず、生徒の自主的・自発的な参加によって行われるもの
- 地域の指導者（兼職兼業の教職員を含む）が指導を行い、地域全体で活動を支えます
- 当面は市教育委員会が主体となった組織が運営
- 学校単位ではなく市単位で、原則「1種目1クラブ」を基本
- 運営維持に必要な範囲で月3,000円程度を目安
- 活動場所は原則中学校施設
- 活動時間はこれまで同様に休日いずれか1日・3時間程度を想定

【課題】

指導者の確保・マッチング・配置、平日部活動との整合、大会参加、運営事務の効率化

＜質問内容＞
これからも、外部指導員に教えてもらいたいと思いますか？

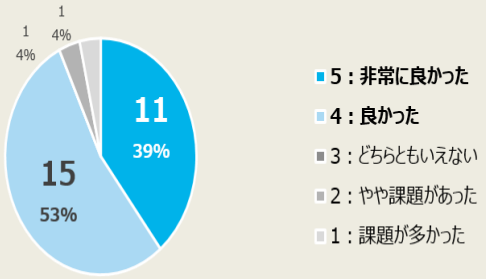
【生徒】



N＝28

＜質問内容＞
この取り組みについて、総合的にどのように評価できるかを教えてください

【保護者】



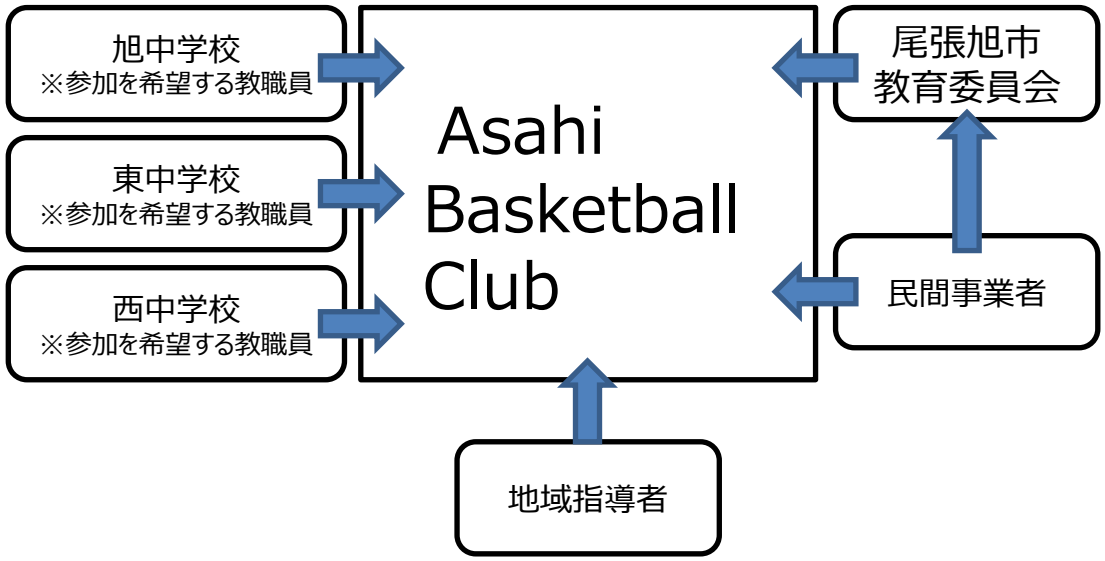
N＝28

※ PRTIMES「【開催レポート】東邦ガスと尾張旭市が「部活動改革に係る実証実験の報告会を開催」2025-05-27. https://prtomes.jp/main/html/rd/p/000000042.000050754.html

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課）

- コーディネーター

年間の事業スケジュール

令和7年4月～

Asahi BasketballClubの設立準備（学校、関係者調整）

9月

地域クラブ関連補正予算計上、可決

10月

Asahi BasketballClubの設立

要綱作成

指導者説明

11月

指導者登録

参加者登録

活動①（ウォーミングアップ、基礎練習、実戦練習）

令和8年1月

活動②（ウォーミングアップ、基礎練習、実戦練習）

3月

活動③（ウォーミングアップ、基礎練習、実戦練習）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		2部活動
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	1人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
Asahi Basketball Club	市教育委員会	バスケットボール	• 平日 0回 • 休日 3回	13:00 ～ 16:00	1年（男）:38人 2年（男）:39人 1年（女）:17人 2年（女）:19人	令和7年11月 ～ 令和8年3月	5人	1人	0円 /年額	無

2.実証内容と成果

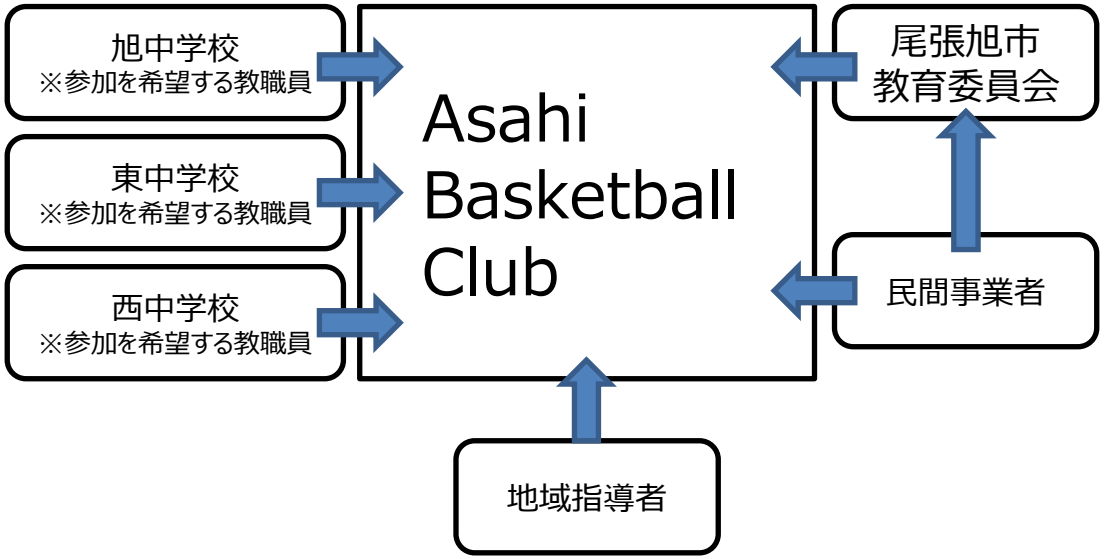
スポーツ庁

主な取組例

Asahi Basketball　Club

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール
運営団体名	尾張旭市教育委員会
期間と日数	令和7年11月～令和8年3月 3回実施
指導者の主な属性	公務員（教職員、地方自治体職員）
活動場所	尾張旭市立旭中学校、尾張旭市立東中学校
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 自治体
  役割：地域クラブ活動の運営を行う。
- 自治体（運営スタッフ）1名
  役割：地域クラブ活動のコーディネートを行う。
- 指導者　5名
  役割：地域クラブ活動の練習を行う。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

3中学校のバスケットボール部の休日の活動を学校枠を無くし、いずれの学校の生徒も参加できるようにする。

現在、本市の中学校部活動はそれぞれの学校で単独実施しているが、今後、加入生徒数の減少や指導者の減少する可能性があることから、3中学校の指導者と調整を図り、地域クラブ活動として実施する環境が整った「バスケットボール」に置いて、実証実験を実施しようとするものである。

一部の中学校では、指導経験の無い教職員が顧問をつとめ、指導を行う際、不安があるという声が出ている。

地域クラブ活動としては、技術力の向上を目指した練習が主となり、大会等への参加は、これまでどおり各中学校から参加することとしている。

今後の取組における課題

- 大会前提の文化と地域クラブの理念の不整合
  合同で練習しながら、試合は学校単位で出場するという構造が、戦術・采配・練習方針の一貫性を損なうという懸念につながった。
  特に市内3校は上位出場を争うライバル関係にあり、戦術漏洩への不安が強く、枠を外すことへの抵抗が大きかった。
- 顧問の危機感と行政側の問題意識のギャップ
  行政側は「加入者減少・指導者減少」を将来課題として捉えているが、現状の市内バスケ部ではその兆候が弱く、学校顧問にとっては“切迫した課題”として認識されにくかった。
- 顧問の勤務実態と優先順位の問題
  休日は「部活動の練習を優先したい」という声が強く、地域クラブ活動が顧問の負担増につながるという印象があった。
  そのため、地域クラブ活動への参加が「本務の妨げになる」と受け止められた。

取組の成果

統合した練習により、生徒は技術面の向上や新たな視点を得るとともに、学校の枠を超えた協働や競い合いを通してコミュニケーション力や意欲を高めることができた。また、複数校連携による活動は、指導者不足や加入者減少への対応策としての有効性を示し、地域クラブとしての具体的な運営イメージを提示した。さらに、多様な指導者・仲間との出会い等、学校部活動では得にくい経験を提供でき、地域クラブ活動の教育的価値を確認することができた。

課題への対応方針

- 大会制度と地域クラブの位置づけの整理
  合同練習と学校単位での大会出場の不整合を解消するため、大会主催者との協議を進め、制度的な整合性を確保する必要がある。
- 合意形成プロセスの再構築
  指導者が抱える不安を丁寧に把握し、事前にルール化した運営方針を提示することで、理解促進を図る必要がある。説明会や意見交換の場を設け、共に制度を作り上げる姿勢が求められる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本取組は、市内3中学校のバスケットボール部において、休日の活動に限り学校枠を外した地域クラブ型の練習を試行し、生徒の交流促進と技術向上の可能性を検証することを目的として実施した。

実施にあたっては、学校部活動が大会出場を前提とした文化を強く有していること、また市内3校が上位大会出場を争うライバル関係にあることから、合同練習と学校単位での大会出場との不整合が顧問の理解を得にくい要因となった。

さらに、行政側が想定する「生徒加入数の減少」「指導者不足」といった将来的課題が、現時点では顕在化していないことも、地域クラブ化への必要性を共有しにくい背景として存在した。

そのような制約の中でも、11月から3月の間に大会期を除く全3回の活動を実施し、生徒が学校枠を超えて交流し、技術向上に取組む機会を提供することができた。

●成果の評価

● 生徒の技術向上と学習意欲の向上

他校生との合同練習により、普段とは異なるプレースタイルや技術に触れ、刺激を受けながら練習に取組む姿が見られた。学校枠を外したチーム編成により、協働性やコミュニケーション力の向上も確認された。

● 学校枠を外した活動の教育的価値の確認

多様な仲間・指導者と関わることで、学校部活動では得にくい経験が提供できた。地域クラブ活動としての可能性を具体的に示すことができた点は大きな成果である。

● 地域クラブ活動の実施可能性の検証

実際に枠を外した練習を行うことで、運営方法、指導体制、安全管理等、地域クラブとしての実施に向けた具体的な課題と改善点を把握できた。

● 生徒の交流促進

ライバル関係を越えて競い合う経験は、生徒にとって新鮮であり、活動満足度も高かった。交流を通じて新たな関係性が生まれたことは、地域クラブ化の意義を示すものである。

●今後に向けて

• 大会制度と地域クラブの位置づけの整理

合同練習と学校単位での大会出場の不整合を解消するため、大会主催者との協議を進め、制度的な整合性を確保する必要がある。

• 合意形成プロセスの再構築

指導者が抱える不安を丁寧に把握し、事前にルール化した運営方針を提示することで、理解促進を図る必要がある。説明会や意見交換の場を設け、共に制度を作り上げる姿勢が求められる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料



【集合（男子）】



【アイスブレイク（男子）】



【試合形式練習（男子）】



【試合形式練習（女子）】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和7年1月	令和7年4月	令和7年9月	令和7年10月		令和7年11月
検討開始	学校現場との調整	指導者の選定	地域クラブ活動の設置	生徒、保護者への説明	地域クラブ活動の開始

●ステークホルダー

学校

●経過

- 市教育委員会からの依頼を受け、休日の活動に限り学校枠を外した地域クラブ型の練習を試行する方針を共有。
- 3校の管理職は一定の理解を示しつつも、部活動の大会前提文化や顧問の負担感を懸念し、慎重な姿勢が見られた。

●実施にあたって生じた課題

- 学校単位での大会出場が前提であるため、合同練習との整合性が取れず、学校としても説明が難しい状況が生じた。
- 顧問の理解が十分に得られない中で、学校としての調整負担が発生した。
- 地域クラブ化の必要性（加入者減少・指導者不足）が現状では学校側に実感されにくく、学校としての優先度が上がりにくかった。

●実施内容、工夫した点 等

- 大会期を避け、学校の教育活動に支障が出ない期間に限定して実施。
- 活動内容や安全管理について事前に共有し、学校としての不安を軽減。

●ステークホルダー

指導者

●経過

- 3校の顧問に対し、地域クラブ型の合同練習の趣旨を説明し、協力を依頼。
- 一部の顧問は理解を示したが、多くは大会前提の活動方針との不整合を懸念し、積極的な協力には至らなかった。

●実施にあたって生じた課題

- 戦術・采配・練習方針の共有に対する抵抗感が強く、ライバル校との合同練習に心理的ハードルがあった。
- 「休日は自校の部活動を優先したい」という声が多く、地域クラブ活動が負担増と受け止められた。
- 行政側が想定する将来的課題（加入者減少・指導者不足）が現場では切迫感を持って共有されず、必要性の認識に差があった。

●実施内容、工夫した点 等

- 戦術や学校独自の方針に踏み込まない「基礎技術中心の練習構成」とし、戦術漏洩への不安を軽減。

●ステークホルダー

生徒

●経過

- 各校の希望者を対象に、学校枠を外した合同練習を3回実施。
- 大会期を避けた期間に限定し、参加しやすい環境を整えた。
- 他校生との交流を通じて、技術向上や新たな刺激を得る機会を提供。

●実施にあたって生じた課題

- 休日の活動時間が増えることにより、学習や家庭生活との両立が課題となるケースもあった。

●実施内容、工夫した点 等

- 他校生と混成チームを編成し、学校枠を外したチームでのゲーム形式を取り入れ、交流と競争を両立。
- 生徒同士が自然に交流できるよう、ウォーミングアップやミニゲーム等に工夫を加えた。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

目的
～令和8年8月：休日の学校部活動を原則廃止
令和8年9月～：地域クラブを順次開始、市が責任主体となり、指導者・学校・地域と協働して運営

基本方針
- 対象：休日の部活動
- 単位：市内で「1種目1クラブ」
- 活動頻度：週1回・3時間
- 会場：市内中学校
- 参加費：月額3,000円（減免制度あり）
- 指導者：2名以上配置（市が募集・研修・認定）

PHASE①
令和8年3月～
制度設計・準備

- 運営規程・会計・施設利用ルールの確定
- 指導者募集 → 面接 → 研修 → 配置
- 保険加入・事故対応フロー整備
- 申込・出欠・会計・事故報告の標準化
- 種目ごとの設置判定

PHASE②
令和8年7月～
最終調整

- 保護者説明会
- 会場校・指導者ロスター確定
- 半期スケジュール確定
- 8月：休日部活動の原則廃止

PHASE③
令和8年9月～
地域クラブ稼働

- 指導体制が整った種目から順次開始
- KPI運用開始（実施率・事故・継続率等）
- 実証での課題改善

PHASE④
令和9年1月～
安定運用

- 四半期レビュー
- 新規種目の追加判断
- 財源導線（減免・協賛・寄付）の整備
- 指導者研修の定期化